

このリソースは、発行日時点で入手可能な情報を反映しています。医学的アドバイス、診断、治療を提供または代替することを目的としたものではありません。このリソースについて質問がある場合は、医療機関にご相談ください。

**私は、妊娠中または授乳中です。**

**私は新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を受けた方がよいでしょうか？**

コロナワクチンをできるだけ早く接種することがもっとも安全な選択となります。コロナワクチンを接種した、何十万人もの妊娠中の人を対象とした研究では、ワクチンは安全であり 感染症発症を予防し、重症化を防ぐことができると報告されています。以下の情報は、あなたがコロナワクチンを接種するかどうかについて、十分な説明を受けよく考えた上で選択するのに役立ちます。

**あなたの選択肢としては、2つあります。**



**できるだけ早くワクチンを接種する**



**ワクチンの接種は、妊娠・授乳が終わるまで待つ**

**妊娠中のコロナウイルスに関するリスクは？**

**コロナへの感染は危険です。妊娠中はさらに危険です。**

- ・ コロナウイルスに感染した妊婦のほとんどは症状が軽く、完全に回復しますが、20～30%は入院が必要な中等度から重度の感染症を起こすと推定されています。
- ・ 妊娠中にコロナウイルス陽性反応が出た場合、入院、集中治療室での治療、生命維持装置を必要とするリスクは、妊娠していない時よりもはるかに高くなります。
- ・ コロナによる肺炎が治癒した後も、多くの人が継続的な健康上の合併症を抱えています。
- ・ 妊娠中にコロナ感染症にかかった場合、妊娠の経過に影響を及ぼし、死産、早産、高血圧、帝王切開、低出生体重児などのリスクが高まります。
- ・ 妊娠中にコロナに感染すると、妊婦自身の合併症や死亡のリスクが高まります。



**コロナワクチンを接種することによるメリットは？**

**コロナワクチンは、感染予防と感染拡大の抑制に高い効果があります。**

- ・ mRNA コロナワクチンは、妊娠している・していないに関わらず、変異型（例えばデルタ株）のウイルスによるコロナ感染症にかかるリスクを低減する効果があります。
- ・ ワクチン接種により、コロナ感染症の発症、重症化、入院の確率が低下します。
- ・ ワクチンを接種することで、家族内や地域社会でのウイルスの拡散を防ぐことができます。
- ・ 妊娠中に接種すると、抗体が胎盤を通じて移行し、新生児の感染予防が期待されています。
- ・ 授乳中に接種すると、抗体が母乳を通じて移行し、乳児の感染予防が期待されています。



**mRNA コロナワクチンは、妊娠中でも安全です。**

多くの妊娠中の女性を対象とした先行研究では、妊娠直前または妊娠中のワクチン接種は、妊娠や妊娠経過に影響を与えないことが示されています（流産、早産、死産、児の発育不全、妊娠中の高血圧などの合併症、死亡の割合に変化はありません）。

## コロナワクチンを接種することによるリスクは？

妊娠中および授乳中の方が mRNA ワクチン（ファイザー社またはモデルナ社）を接種した場合、妊娠していない人と同じように、ワクチン接種による副作用が発生します。

35,000 人以上の妊娠中または授乳中にコロナワクチン接種をした女性を対象とした研究(米国)では、以下のような結果が得られました。

一般的な副作用としては、注射部位の痛み、頭痛、倦怠感、筋肉／関節の痛みがありました。

- ・発熱を経験した妊婦は 10%未満でした。
- ・アレルギー反応／アナフィラキシー（生命を脅かす重篤なアレルギー反応）はまれでした。
- ・心筋炎（心筋の炎症）および心膜炎（心臓を取り巻く膜の炎症）はごくまれに発生しましたが、治癒しており、合併症はありませんでした。

mRNA コロナワクチンは、

×生ウイルスは含まれていません。

×水銀、アルミニウム、ホルムアルデヒドなどの人体に有害な物質は含まれていません。

×ヒトや動物の血液やその産物は含まれていません。

×母体の血液中からは検出されていないので、赤ちゃんに直接ワクチンが移行することはありません。

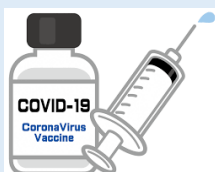


mRNA コロナワクチンの接種を禁忌とするものは極めて少ないです。

- ・妊娠中や授乳中であることは、ワクチンを接種しない医学的な理由にはなりません。
- ・コロナウイルスに感染したことのある人は、再感染や別の変異型ウイルスに感染するリスクがあります。そのため、強力で長期的な予防効果があるワクチン接種を受けるべきです。

## 専門家の推奨は？

- ・米国予防接種諮問委員会（NACI）は、妊娠中または授乳中の女性に、mRNA コロナワクチンの接種を強く推奨しています。
- ・カナダ産科婦人科学会（SOGC）は、禁忌事項がない場合は、カナダのすべての妊娠中または授乳中の女性にコロナワクチンを提供すべきであると述べています。
- ・日本においては（日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本産婦人科感染症学会）、妊娠時期を問わずに妊婦へのワクチン接種が推奨されています。妊婦が感染する場合の約 8 割はパートナーの方からの感染のため、パートナーのワクチン接種も推奨されています。



他にどんなことを考えて決めればよいのでしょうか？



① コロナ感染症とワクチンについて、できる限り理解する必要があります。  
産婦人科医、助産師、かかりつけ医、看護師など、信頼できる人に聞いてみましょう。

② 自分自身のリスクについて考えてみましょう。

下の欄を見て、コロナウイルスに感染したり、コロナによって重症化したりするリスクについて考えてみましょう。自分の安全について考え、安心して過ごせるかどうかを考えてください。コロナワクチンの接種はあなたの安全性を高めますか？

コロナウイルスに感染するリスクが高いのは、

- 感染者が多い地域に住んでいる
- 家族以外の人と定期的に接触している
- 密集した住宅環境に住んでいる
- 本人または家族の誰かが、リスクの高い環境で働いている（例：最前線のエッセンシャルワーカーや医療従事者など）

妊娠中に重症化するリスクが高いのは、

- 健康に問題を抱えている（例：妊娠前からの糖尿病、妊娠前からの高血圧、免疫力の低下、腎臓病、肝臓病、心臓病、喘息）
- 肥満がある
- 喫煙者である
- 35歳以上である
- 妊娠後期（28週以降）である



コロナウイルスに感染して重症化するリスクが高い場合は、できるだけ早くワクチンを接種した方が安全です。コロナ感染による重症化のリスクは、コロナワクチンのリスクよりもはるかに大きいとされています。

コロナ感染症から自分や赤ちゃんを守るにはどうしたらよいですか？

- 外出時はマスク（不織布）を着用する。
- 手洗いを徹底する。
- 人ごみを避け、一定の距離をとる。
- コロナ感染症の症状がないか自己チェックをする。
- 妊娠前から産後まで継続して健診を受ける。
- コロナワクチンを接種する。



躊躇した場合、コロナ感染症による重症化のリスクが高まることを知っておく必要があります。

## Q&A

### 授乳についてはどうですか？

コロナワクチンは、授乳中の方にも安全に接種することができます。

ワクチンは母乳からは検出されていません。

- ・母体のワクチン接種後、母乳中に抗体が移行することが示されており、コロナ感染症から赤ちゃんを守ることができます。
- ・授乳中にコロナワクチンを接種しても、母乳育児を妨げることはありませんし、赤ちゃんに悪影響を及ぼすことはありません。



### ワクチン接種後に妊娠した場合は？接種時期は？

妊娠している場合や、1回目の接種後すぐに妊娠した場合は、2回目の接種を受けてください

- ・いくつかの研究によると、コロナワクチンを妊娠前および妊娠中に接種しても、妊娠初期の流産のリスクや妊娠中の有害な影響はありません。接種時期はいつでも可能とされています。心配な方は、胎児の器官形成期を避けた、妊娠12週以降が推奨されていますが、ワクチン接種による、胎児に奇形が起りやすいという報告はありません。



### 妊娠を計画している場合は？

妊娠を予定している方は、できるだけ早くワクチンを接種することをお勧めします。

コロナワクチンが不妊症を引き起こすことを示唆するエビデンスはありません。接種したワクチンはほとんど卵巣には到達しないと報告されています。不妊治療は、コロナワクチン接種を受けられない医学的理由ではありません。着床前にワクチン接種し、妊娠継続されたというデータもあります。また、生ワクチンではないため、接種後の長期の避妊の必要はないとされています。

### ワクチンの副反応での解熱鎮痛剤を使用できますか？

- ・妊婦さんの場合には、アセトアミノフェン（カロナール®など）は使用可能ですが、妊娠後期の妊婦さんは、非ステロイド性抗炎症薬（ロキソプロフェン、イブプロフェンなど）は避けるべきとされています。
- ・授乳中の方は、アセトアミノフェン（カロナール®など）、非ステロイド性抗炎症薬（ロキソプロフェン、イブプロフェンなど）ともに使用できます。

### 産後はいつから接種できますか？

産後体調がよければいつでも接種可能とされています。

### 追加接種による副反応は強くなりますか？

2回目の接種後と比較して副反応の出現は概ね同様と報告されています。この副反応は、接種翌日の発現頻度がもっとも高く、3日後にはほとんど消失するとされています。

## まとめ

妊娠中に、コロナワクチンを接種することはあなたの選択です。

コロナ感染症は、妊娠している人の方が、同年代の妊娠していない人よりも重症化しやすいです。

コロナワクチンは、コロナ感染症を防ぐのに非常に有効で、重症化予防にもなります。

これまでの研究から、**mRNA** コロナワクチンは、妊娠中や授乳中の方にも安全に接種が可能です。



他にもご質問がありますか？  
詳しくは医療機関にご相談ください

この資料は、カナダの The Provincial Council for Maternal and Child Health で作成されたものを基に日本語に翻訳しています。著者の使用許可を受けて作成しました。

なお、この日本語版エイドは、妊婦・授乳中の母親・医師・助産師・保健師・看護師の意見を受け、修正しています。

文献などの詳細については [www.PCMCH.on.ca/COVID-19Vaccine](http://www.PCMCH.on.ca/COVID-19Vaccine) にアクセスしてください。

<作成者>

聖路加国際大学大学院 ウィメンズヘルス助産学 助教 穴戸恵理

聖路加国際大学大学院 ウィメンズヘルス助産学 特命教授 堀内成子

作成日 2021年12月12日、最終更新日 2022年4月8日

<お問い合わせ>

日本語版エイドに関するご意見・ご感想をお寄せください。

右のQRコードを読み込むと入力することができます。



無断複写・無断転載はご遠慮下さい